

大相撲九月場所観戦印象雑記

中日になると、景色が良く見えてくる。前半の相撲内容から見た印象は……

大の里は、腰を中心として体ごと前に運んで、相手に前進圧力をかける力強い相撲が目立っている。しかし、膝の曲りが少なく、やや腰高なのが気になる。

豊昇龍は、目つきから見るとかなり気合いが入っているので自信も持っているように感じる。速さと力強さが見えるが、少々粗雑さや乱暴さもうかがえるので注意が必要か。

琴櫻は二日目ぐらいまでは落ちついた取り口が感じられたが、安青錦に敗れてから相撲が安定しなくなり、不調な力士にも負けていて、早くも脱落。

関脇は二人とも期待したほどの安定度は見られず、若隆景については報道陣が騒ぎ立て過ぎて、本人が淡々と相撲を取ることが出来なくなってしまう感じがする。

小結では、安青錦が自分の相撲を貫いて星を上げているが、高安は勝越しも危ない状況。

横綱がトップに立っているのは安心感があるが、大関・関脇が後に続いていないのは何とも淋しい。

中日を終って、こんな成績分布になった。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
全勝	豊昇龍				
7勝1敗	大の里				正代、隆の勝
6勝2敗				安青錦	若元春、宇良、翔猿、竜電、獅司

●九日目

獅司は、朝紅龍の見事な下手投げに転がされてしまった。腰が高い獅司の弱点を突いた感じだった。

竜電は、手に汗を握る熱戦の末、時疾風を寄り切って2敗を堅持。相撲巧者同士の熱戦は面白い。

2敗の翔猿は全盛期以上の迫力の正代に撃破され、3敗に後退。1敗を守った正代は無気味な存在になるかもしれない。隆の勝は翠富士に上手く取られてしまい2敗に後退、宇良は大栄翔に突き出されて、これまた後退。安青錦は阿炎を難なくさばいて2敗に残った。落ちついた取り口と低い姿勢を持続できる体幹が素晴らしい力士だ。

全勝	豊昇龍	豊昇龍は琴勝峰に圧勝して全勝を守った。
8勝1敗	大の里、正代	結びの一番、大の里は腰を前に運び若元春を圧倒。
7勝2敗	安青錦、隆の勝、竜電	両横綱がトップを争う形になったが、まだ予断を許さない状況。

●十日目

全勝	豊昇龍	正代と隆の勝の直接対決は、隆の勝の力強い押し相撲に凱歌が上がった。
9勝1敗	大の里	安青錦の落ち着き払った相撲ぶりが目立って来た。
8勝2敗	安青錦、隆の勝、正代、竜電	両横綱は尻上がりに相撲が良くなってきたので、大の里

の力強い寄り身か、豊昇龍の素早い動きか、という感じになってきた。明日の正代・安青錦戦と隆の勝・竜電戦で勝ち残るのは誰か。ここで四人に絞られることになる。久しぶりに面白くなってきた。

●十一日目

美ノ海・翔猿戦、翠富士・時疾風戦など下位の力士同士の熱戦が多い。今場所の特徴かもしれない。隆の勝・竜電の2敗同士の取組は、竜電の厳しい押っつけが続く中で隆の勝がいなしからの突き落と

して結着を付けた。見応えのある一戦だった。

大栄翔が九日目から本来の相撲を取り戻して連勝中なのが光って見える。

今日の最大の注目点は2敗同士の正代・安青錦戦。腰高で胸を突き出して踏み込んでくる正代に対して、低く安定した体勢で突っ込んでくる安青錦、取り組みの流れや勝負の結果が想像できそうな気

全勝	豊昇龍
10勝1敗	大の里
9勝2敗	隆の勝、正代、

がするが……。

立ち合いで大きく踏み込んだ正代が、安青錦を引っ張り込んで深く挿させておいて、そのまま勢いよく腰から前進して土俵外に運び去ってしまった。安青錦を攻略する術としては的中という結果になった。

豊昇龍は全勝を大の里は1敗をそれぞれ守り、賜杯争いは4人に絞られた。

●十二日目

中入り後四番目の取り組み「正代・竜電戦」に注目が集った。竜電は今日も厳しい押っつけを繰り返して正代に相撲を取らせなかった。今場所の竜電は、厳しい取り口・巧い相撲・しぶとい勝負が光っていて、全盛期を思わせるような感じがする。

隆の勝は大関琴櫻の猛攻に土俵際まで下がってしまったが、反り身になってこらえた後、今度はのど輪で逆襲して、土俵を横切って琴櫻を運び去った。琴櫻は腰が定まっていなかったように感じる一番だった。

11勝1敗	豊昇龍、大の里
10勝2敗	隆の勝

大の里が落ちついた取り口で霧島を圧倒して1敗を守った。

結びの一番、豊昇龍・安青錦戦は本日最大の取り組み。

豊昇龍は、立ち合いで安青錦に食い付かれることを恐れて突っ

張りを繰り返したが、低い姿勢の安青錦には余り有効打にならず、左で前まわしを取られてしまった。

掴んだら離さない安青錦の前まわし、苦し紛れに小手投げに行こうとした横綱に、外掛けと切返しの連続技でとどめを刺した。

これで両横綱が1敗で並び、「千秋楽・結びの一番相星決戦」の筋書きが出来上がった。千秋楽までこのままで行けばの仮定の話ではあるが、隆の勝がどこまで付いていくのかも見どころ。

殊勲賞・技能賞・敢闘賞の行方も、ほぼ想定可能な状況になってきた。

●十三日目

安青錦は巧みな動きの中で隆の勝を渡し込みで転がして、隆の勝を3敗に引きずり下ろして並んだ。

12勝1敗	大の里
11勝2敗	豊昇龍

豊昇龍は粗雑な対応が裏目に出て琴櫻の体の寄せに屈して2敗に後

退。大の里は若隆景を難無く退けて1敗を守ったが、折角の千秋楽相星決戦の機会を失った。

●十四日目

安青錦は平戸海の激しい突き押しに応戦して、熱戦になった。瞬時に掴んだ勝機を物にしたような形で安青錦が勝ち、11勝目をあげた。

13勝1敗	大の里
12勝2敗	豊昇龍

隆の勝は関脇霧島を、隆の勝らしい猛攻で攻め勝って11勝3敗。

琴櫻の休場が発表されて大の里は不戦で13勝目。豊昇龍は、立ち合いの変化で右からまわしを掴んで若隆景を叩き込んだ。互角に戦う自信がなかったのかもしれない。

●千秋楽

「千秋楽・結びの一番・相星決戦」は実現しなかったが、千秋楽の結びの一番まで賜杯の行方がわからないという面白い展開になった。しかし、それは呆気ない相撲で終わってしまった。立ち合いに鋭く突っ込む豊昇龍に対して、やや立ち後れ気味で腰高だった大の里、豊昇龍は小刻みな突っ張りで大の里を起こしておいて、左で深いところを取り素早い前進、最後は押し出して圧勝した。

そして優勝決定戦、大の里が建て直してきた感じで、鋭い踏み込みで圧倒して土俵を横切って豊昇龍

を寄り倒した。物言いがついたが、土俵際の体の残り具合から見て大の里の勝ちは変らなかった。
今場所の大の里の「良いところ」がこの一番に現れていた。

13 勝2敗	大の里、豊昇龍
--------	---------

かくして、大の里の5回目の優勝となった。

殊勲賞＝伯桜鵬・敢闘賞＝隆の勝・技能賞＝安青錦となったが、ほぼ妥当なところだろう。

途中経過としては不安材料もいくつかありはしたが、終盤になって横綱同士が賜杯を争う形に納まり
何とか興行としての体裁は保つことができた。

また、下位の力士、若手力士、ベテラン力士などが、力を出し切って熱戦を繰り広げる日が多く、観客
席から見て、満足度の高い場所だったと言える。今場所の地位別・成績分布を作ってみた。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
13勝2敗	大の里、豊昇龍				
12勝3敗					隆の勝
11勝4敗				安青錦	宇良、
10勝5敗					王鵬、宇良、正代、獅司
9勝6敗		琴櫻			若元春、欧勝馬、美ノ海、翔猿、竜電、
8勝7敗					伯桜鵬、平戸海、草野

次世代をうかがう若手力士が姿を見せ始めてきて、これからが楽しみになってきた。少しばかり好成績
を上げると「大関だ、大関だ」と騒ぎ立てる風潮が相変わらずだが、じっくり見守り、育つのを待つこと
も大事なことだと思うこの頃である。

以上